



崖や川岸などに群生する。



陽地や寒期には紅紫色を帯びることがある。



孢子囊群は縁に付く。

区別のポイント

葉は3～4回羽状複葉で、やや厚く硬い草質から革質。ハマホラシノブは海岸の岩場などに生育し、裂片が幅広く、多肉質。

形態 常緑生で中型のシダ植物。

分布 本州（福島・新潟県以西）・四国・九州・沖縄

名前の由来 洞シノブからだが、日の当たる場所に生育する。

葉 **〈全体〉** 3～4回羽状複葉で長楕円状披針形。長さ15～60 cm、幅5～20 cm。草質から革質で黄緑色から緑色。

〈葉柄〉 長さは葉身より短い。

〈羽片〉 下部の1～2対の羽片は少し短い。裂片は狭いくさび形で、孢子囊群は裂片の辺縁に沿って長楕円形に伸びる。

備考

出典 4, ※